



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2011年 No. 5

(通巻21号)

12月23日発行

2011年も、ようやく終わりに近づいてまいりました。

皆様方におかれましては、何かとお忙しくお過ごしのことと思います。

今年度最後のニュースレターは、秋の活動の報告を中心にお届けいたします。

3.11 以来の厳しい状況にもかかわらず、バオバブの会は、本年も着実な活動を展開することができました。

深く感謝申し上げますと共に、来年度も一層のご支援・ご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

★よこはま国際フェスタ2011

<http://yokohama-c-plat.org/>

開催日：2011年10月23日(日)

会場：象の鼻パークBゾーン、波止場会館

神奈川県最大規模の国際フェスティバルですが、今年は、1日目が、荒天の為、急遽中止となり、日曜日1日だけの開催となりました。

バオバブの会は、世界の食ゾーンに出展し、マフェ（トマトとピーナツソースのビーフシチュー パン添え）、ヤッサ(マリネしたチキンと玉葱のシチュー パン添え)、ベニエ（ココナツとレーズン入りアフリカンドーナツ）、アターヤ（セネガル風ミントティー）の他、ケベサック（セネガルの女性たちの手作り布バッグ）、アフリカ関連児童書等を販売しました。

ブース内では、展示による活動報告もおこないました。

特に食販は大好評で、早々に完売となりました。

★アフリカン・フェスタ2011

<http://www.africanfesta2011.com/>

開催日：2011年11月12日（土）・13日（日）

会場：横浜市山下公園

東日本大震災の為に延期となった外務省主催のアフリカン・フェスタ2011ですが、上記の通り、開催されました。

バオバブの会は、NGOコーナーに出展し、ケベサック、アフリカ関連児童書、アフリカン・プリント布、缶バッジ、ヘアアクセサリキット、手作りカード等を販売しました。

ブース内では、展示による活動報告もおこないました。

2日間とも晴天に恵まれ、多数の入場者で賑わう中、バオバブの会のブースも多くの皆様をお迎えし、楽しく、また有意義な販売活動と交流活動をおこなうことができました。

スタッフをしてくださった皆様、また、ブースをご訪問くださった皆様、大変にありがとうございました。

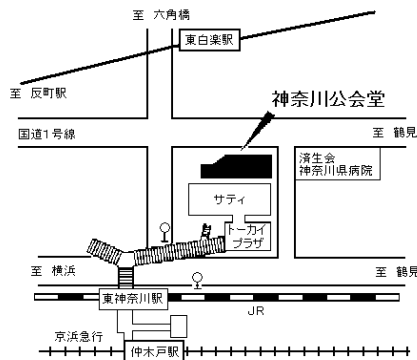
★★★★ お知らせ ★★★★★

神奈川県区民力発揮プロジェクト セネガル物語 Vol.3

主催：アフリカルチャー

日時：2012年2月25日（土）11：00～18：00 会場：横浜市神奈川公会堂

JR東神奈川・京急仲木戸下車 徒歩4分 東急東横線東白楽下車 徒歩5分



音楽を通してセネガルの歴史と文化を伝える、大人も子どもも楽しめるイベントです。

下記の通り、コンサートの他、ワークショップとセミナー、また、展示、アフリカご飯試食、物品販売など、多彩なイベントが予定されています。

11：15～11：45 ダンス体験 参加費500円（当日先着15名）

11：45～12：15 ジェンベ体験 参加費500円（当日先着15名）

太鼓レンタル8台まで。ジェンベをお持ちの方はご用意下さい。

13：00～13：30 「FGM廃絶を支援する女たちの会 Women's Action Against FGM, Japan (WAAF)」セミナー 無料

(FGMとは、Female Genital Mutilation (女性性器切除) の頭文字を取った略語)

13：45～14：30 セミナー『セネガルのことをきいてみよう～学校・支援～』 無料

(14：30開場) 15：00～17：00 コンサート『セネガル物語』

コンサートチケット 大人980円 中学生以下500円（大人1人につき、未就学児1人膝上無料）

ご予約いただくと、優先的に見やすい座席で鑑賞できます。

ハガキ、FAX、Eメールで、氏名・住所・希望枚数をお知らせ下さい。予約番号が返信されます。

ハガキ→ 〒221-0842 横浜市神奈川区広台太田町3-8

神奈川県区民活動支援センター 「子がめ31」

FAX → 045-314-8890

Eメール→ afiriculture@kjf.biglobe.ne.jp

バオバブの会は、本年3月に続き、2回目の参加となります。

今回も、ディウフ会長によるセミナー『セネガルのことをきいてみよう～学校・支援～』の他、展示による活動紹介とケベサックやアフリカ関連児童書等の販売をおこなう予定です。

多くの皆様のご来場をお待ちしています。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★ 第1回『ことわざは〇〇』

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ (訳・文責 水野)

今号より、皆様に、アフリカのことわざをご紹介しますと思います。

けれども、それは易しいことではありません。マリのバンバラ人のことわざに、「優れたことわざは、眉毛ではなく、目の奥を打つ」というのがあります。優れたことわざは、直接、心に伝わる、といった意味です。が、それでもなお、ひとつの文化と言語によることわざを、そっくりそのまま、他の言語で伝えるのは、簡単なことではないからです。ルワンダのツチ人が「ことわざは無からは出ない」というように、ことわざは、ひとつの社会の中の現象や出来事に、そのルーツを持っています。ですから、ことわざの深い意味を理解するためには、その社会の日常生活を知らなければなりません。

1つの例を挙げましょう。ブルンジのフツ人は「ことわざはタムタムのようなもの」といいますが、これはどのような意味だと思いますか？このことわざを理解するためには、まず、タムタム(太鼓)が、かつて、アフリカの多くの社会で果たしていた役割を知らなければなりません。それは、重要で有効な伝達の手段だったのです。王国中の村から村へメッセージを伝える、つまり、タムタムは、アフリカの最初の電話でした。ですから、フツ人は、ことわざは、タムタムのように、伝えたいことの大事な部分を、要約して、うまく伝えることができる、というのです。

このようなフツ人の考え方は、ナイジェリアのヨルバ人のそれと似ているところがあります。ヨルバ人は、「ことわざは言葉の馬。言葉が迷子になったとき、ことわざが見つけてくれる」といいます。このことわざは、皆様の眉毛を打ちましたか？それとも目の奥を打ちましたか？ご説明しましょう。ことわざは、言語活動において、欠かすことのできないものだ、ということなのです。演説でも講演でも、ことわざは、しばしば、話し手を助けてくれます。言葉に詰まったときでも、どう話そうかと迷ったときでも、ことわざで切り抜けることができます。ことわざは、話したいことの大事な部分を、効果的に、そして、細かく話すことで余計にわかりにくくすることなく、伝えることができるからです。

ご覧のように、ことわざというものの意味を説明しながら、同時に、アフリカの歴史と文化の窓を開きました。また、この新しい試み、アフリカのことわざのコーナーを、<ことわざについてのことわざ>によって始めてみました。いかがでしたか？

次回からは、ひとつのテーマを選んでご紹介したいと思っています。どうぞ、お楽しみに！



バ オ バ ブ の 会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35

TEL&FAX 045-373-0059

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行 八重洲通り支店普通口座 no.1523673

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215